

私のおすすめ この1冊!

長期経過から学ぼう
歯周治療の臨床ポイント
—20年後を見据えた治療計画, そして歯周補綴—

清水雅雪 著

A4 変判・218 頁・定価 (本体 9,000 円+税)
2013 年 11 月 7 日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

大月基弘

(大阪市北区・DUO デンタルクリニック)



2013 年 4 月 7 日, 3 年間のスウェーデン・イエテボリ大学歯周病科のポストグラデュエートコース(大学院専門医課程)を終えたばかりの私は, ある勉強会にお伺いする機会をいただきました。それは「スウェーデンで学んだ知識を臨床に活かしておられる先生がこられますよ」というお話を伺ったのでしたが, そこで初めて清水先生のケースプレゼンテーションを拝見させていただきました。

そこでは 20 年以上が経過した, スウェーディッシュな歯周病治療を軸とした多くの素晴らしい症例が提示され, 非常に感銘を受けたのです。講演後, 清水先生から「長期症例からわかる多くの大切なことを, 若い先生に学んでもらいたい」という熱いお気持ちを伺ったのですが, それが一冊の本としてまとまったことは大変意義のあることだと思います。

まずは, わかりやすい切り口, 語り口で書かれていることがこの本の特徴です。小難しい論文の話のをうまくまとめて, シンプルに大切なポイントが書かれているため, 読み手をダイダイと引き込んでいきます。なかでも私が“ここだ!”と思ったのは, 患者さんへの動機づけの具体的な方法です。わかりやすい言葉づか

いで書かれていることで, すぐ明日からの診療に役立ちます。

歯周治療の難しさは, 歯周病という病気に向き合うこと以上に, 患者さんのモチベーションとコンプライアンスを長期間にわたって高いレベルで保たせ続けることです。本書で示された多数の長期症例をみると, 読まれた方は高いレベルでプラークコントロールがなされていることにすぐお気づきになることでしょう。

それらのケースの背景では, 初診から SPT に至るまで, 患者さんに対して一貫してプラークコントロールの重要性が語られているに違いありません。それ故, 多くの歯が長期に機能しているわけです。これらの長期症例の中では問題点や反省点もしっかりと考察されており, 私たちがこれからの 10 年, 20 年後を見据えた治療計画を立案する際のヒントを与えてくれます。

もう一点, 皆さまにぜひご理解いただきたい大切なことが書かれています。それは診断の大切さです。歯を“抜歯適応”“保存可能かどうかは疑問”そして“保存できる”の 3 つの分類に適切に診断し, 振り分けることにより, 適切な治療計画が立てやすくなるのです。

インプラント治療の発展により,

純粋なクロスアーチブリッジの症例はスウェーデンでも少なくなってきました。しかし近年, インプラント周囲病変の問題がクローズアップされ, インプラント周囲炎にまで問題が進展すると, それを治療するのは安易なことではありません。2013 年 11 月の現在まで, インプラントが天然歯よりも長期間機能し, 優れているという科学的根拠はありません。歯の保存を疎かにしてインプラント治療に取り組むことは, 現状では望ましいことではないということです。

適切な診断, 治療計画, 手技, あとは患者さんのコンプライアンスがしっかりしていれば, 現在曖昧な診断で抜歯されている歯が長期にわたって保存できる可能性があるということであり, それは本書を読めば理解できることと思います。

最後に, この良書を熟読した後, できることならこれらの治療をサポートしている文献を紐解かれることをお勧めします。そうすることにより, 保存困難な歯を著者がなぜここまで長期に残すことができていたのか, よりいっそう理解できるはずですが, そこまでくれば, 歯周病治療のプロとして誇りをもって歯周病と対峙できることになるでしょう。